

シンボルマークと愛称

財団のシンボルマークは、公募によって1990(平成2)年の7月に決まりました。応募総数411点の中から厳正な審査の結果、左の作品が最優秀作品に選ばれました。



シンボルマーク

シンボルマークは、大阪府の頭文字「O」をモチーフに、人が起き上がり、活動することにより、人と人とのふれあいが生じ、心が通じ合うさまが、ハートに象徴されています。同時にますますの発展、進歩、活発さ、活動の広がりイメージされています。

財団法人大阪府地域福祉推進財団には、「FINE(ファイン)財団」という愛称があります。

これは、Full Participation(完全参加)、Integration(統合化)、Normalization(みんなが社会の一員として共に暮らす社会づくりの考え)、Equality(平等)の4つの頭文字をつないだもの。

みんなが等しく暮らせるようなファイン(素敵・快適)な社会をつくり上げていくという意味が込められています。

『FINEおおさか』創刊

ファイン財団が設立され、通年事業として老人大学講座、シルバードバイザー養成講座や

高齢者総合相談情報センター、大阪府立老人総合センターの運営を開始。その後、大阪府立障がい者交流促進センター、大阪府谷町福祉センターの運営などを始めました。

さまざまなイベントや講習会などを積極的に開催。高齢者・障がい者・子どもたちなど幅広い世代の府民が集い、二泊三日で交流を深める祭典「洋上ふれあいフェスティバル(サンシャインクルージング)」も実施しました。

そして、財団設立一周年を記念して「FINEおおさか」プレ創刊号を1990(平成2)年の12月に発行。翌年の3月には、創刊号を発行。そこには、特集「学衆社会を拓く」と題して、



「人生80年」という長寿社会を見据え、生涯学習がいかに大切なものかをテーマにした著名人による座談会の様子を掲載。また、「FINEマナビスト」と題して、さまざまな生涯学習活動を実践されているグループや個人を紹介しました。以降、「FINEおおさか」では、自分らしくいきいきと社会を生きる多くの「人」を紹介してきました。2002(平成14)年43号からの「おおさか元気人」のコーナーでは、数々の素晴らしい人にご登場いただきました。

共生社会を考える総合情報誌「FINEおおさか」は、年4回のペースで発行され、2009(平成21)年1月までで70号を数えました。

『FINEおおさか』創刊号の表紙と誌面